



歴史めぐりラン in 上海

今回は上海の歴史の見どころをめぐるランニングコースを、テーマ別にご紹介。シューズのヒモを結んだら、さあ上海タイムトリップに出発しよう!!

2人の偉人を訪ねて 徐家匯コース



徐家匯コースマップ



- 1 聶耳像
- 2 百代小楼(徐家匯公園内)
- 3 徐家匯天主堂
- 4 光啓公園&記念館

近代工業発祥の地 楊樹浦路コース

楊樹浦路コースマップ



上海の発展を支えた工業地帯

黄浦江沿いで交通の便がよかつたことや、安価な労働力が豊富だったことで、清末期に工場が作られたのがこの楊樹浦路エリアだ。
軌道交通4号線「楊樹浦路」駅をスタートして800mほど進むと、許昌路と交差する。この通りの少し奥にある「紡三小区」は日本の紡績工場社宅だった場所、今も地元の人々が生活しているのかな小区だ。
楊樹浦路に戻ったら、右手に現在も稼働する浄水場「楊樹浦水廠」を見ながら「楊浦大橋」を目指そう。6車線の大きな橋は、いつ見ても息をのむ迫力だ。真下を通過してさらに走り進めると、かつての養蠶工場の跡地に作られた「上海国際時尚中心」に出てゴール。キューポラを買って「遠東一番の大型発電所」といわれた「楊樹浦発電廠」のキューポラを背景に、静かな黄浦江沿いでのおんびり飲むのがおすすめです。

国歌誕生の地と西洋学の玄関口

このコースでは2人の人物に関連した史跡を辿ろう。
「常熟路」駅から淮海中路を西に進むと、「聶耳像」が見えてくる。聶耳は、国歌「義勇軍行進曲」を作り、23歳で世を去った若き作曲家だ。もともと映画の主題歌だったこの曲は、徐家匯公園内の「百代小楼」でレコーディングされた。
華やかな徐家匯交差点を抜けて、漕溪北路を南下すると、早速右手に立派な教会が現れる。「徐家匯源」と呼ばれるこの周辺は教会関連施設が多く、今でも修道院や孤児院の跡が残っている。
もともとこの地を開拓したのは徐光啓という明の時代の学者だ。キリスト教と西洋科学技術の普及に貢献した彼の影響で19世紀以降、この地が重要な布教の拠点となった。南丹路にある「光啓公園」で彼の功績を伝えており、記念館も併設されている。走り終わったらぜひ訪れてみよう。

往時を偲ぶ廃線跡探訪 淞沪鐵路コース



淞沪鐵路コースマップ



ロマンと哀愁漂う鉄道の軌跡

このコースは19世紀後半に上海を走った、中国初の鉄道「呉淞鐵路」をはじめとする、上海鉄道史をたづねることができるランニングコース。
スタートは「宝山路」駅にほど近い鉄道博物館。現「上海火車」駅ができる前まで使われていた「上海北」駅の駅舎が利用されている。宝山路を軌道交通3号線沿いに北上していくと、1963年まで走っていた「淞沪鐵路」の駅跡「天通庵駅旧址」、さらに「大柏樹」駅のそばにも「江湾駅旧址」がある。気付きにくいのでお見落としはな

「1876老駅創意園」の裏手には古い蒸気機関車が残されており、客車の中にあるカフェでひと休みするのも鉄道旅の雰囲気を感じられていいかもしれない。広紀路を進むと、ゴールの「江湾鎮」駅までの2.5km弱の間になんと3つも廃線跡と踏切が。鉄道好きにはぜひ足を運んでもらいたいコースだ。